



環境保全と貧困解消を目指して、 養蚕と織物による循環型社会システムの 定着を図っています。



左)糸つむぎの訓練
右)エリ蚕

ここ、フィリピンパラワン島でも、貧困問題と環境破壊は表裏一体の問題となって地域の大きな課題となっています。基金では、地域貧困層の生活安定と、自然資源の過剰利用(過度な森林伐採など)の防止を目指して、パラワン島首府プエルトプリンセサ市を中心に、これまで捨てられていたキャッサバ(タピオカ)の葉でエリ蚕の養蚕を行い、その繭から絹製品を生産、販売する、循環型の農業/産業システムの定着と普及に、NPO法人2050とともに取り組んでいます。2004年度は港町のポートパートンの活動にも着手しました。

2004年の活動

02年度から活動を始めているプエルトプリンセサ市では、基本的な技術・機材(糸紡ぎ機・織機・編み棒等)が整ってきたことから、製品を輸出レベルに引き上げるための指導員を日本から派遣し、品質向上に向けた研修を行いました。製品自体はもう少し改善が必要ですが、地元の女性を中心に人々の意識は高く、研修生の内3名以上が自らトレーナーとなって基礎的な訓練を施すことのできる状態にまで成長。次のプロジェクトサイトであるポートパートンで指導を始めています。ポートパートンでは日本からの糸紡ぎ機を複製、練習に取り掛かりましたが、「収入」を急ぎすぎたためか粗悪品を大量に生産するという悪循環に陥ってしまいました。「売れる」製品作りに向けた練習の継続と、都市部のホテルや土産物屋などを通じて観光客を対象に市場・販路を開拓することが課題です。

今後の活動

プロジェクトのサポーターである地域の代表や教会関係者との交流の中で、特に北部地域で森林に貧困農民が入り不法伐採を行っており、対応に苦慮している現状が指摘されました。05年度は2つのプロジェクトサイトでの活動を推進するとともに、「環境保全と貧困」をテーマに地元との対話を進め、基金としての協力のあり方を模索していきたいと思ひます。